

ホームページへの掲載	
7月	28日 掲載

岐阜県立恵那高等学校

校長 瀨瀬 康雄
 学校住所 岐阜県恵那市大井町1023番地1 電話 0573-26-1311

- 1 会議の名称 恵那高等学校評議員会 (第1回)
- 2 会議の構成
- | | | |
|----|-------|--------------------|
| 委員 | 鈴木 恵司 | 恵那高等学校PTA会長 |
| | 高木 應浩 | 東栄製紙工業株式会社 社長 …ご欠席 |
| | 田中 廣司 | 地域住民、元県立高等学校校長 |
| | 蜂谷 明子 | 蜂谷医院 小児科医師 |
| | 保方多津美 | 司法書士 |
- (委員名は五十音順)
- | | | |
|-----|-------|---------|
| 学校側 | 瀨瀬 康雄 | 校長 |
| | 三輪田久信 | 教頭 |
| | 古橋 良成 | 事務部長 |
| | 足立 幸司 | 教務主任 |
| | 磯部 徹 | 生徒指導部長 |
| | 丹羽 静 | 進路指導部長 |
| | 佐々木俊哉 | 探究理数科部長 |
- 3 会議の目的 学校運営について、地域住民や関係諸機関の代表者から幅広く意見を聞き学校改善を図り、地域全体からの支援・協力を得て、愛され信頼される開かれた学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 令和2年7月14日(火) 13:30~15:30 恵那高等学校会議室
委員4人と学校側7人が出席
- 5 会議の概要
- ・学校長挨拶、出席者紹介
 - ・令和2年度の教育方針及び学校経営計画(マニフェスト)、現在の取組み状況について(学校紹介ビデオ、配付資料を使用して説明)
 - ・教育活動の概要等について(教務部、生徒指導部、進路指導部、探究理数科)
 - ・意見聴取及び意見交換

(1) テーマ 学校概要説明

- 学 校 長 学校教育目標に示す以下の5つの人材の育成に努めている。
1. 確かな知識・技能を基に、社会に貢献できる人を育成する。
 2. 探究活動を通して、問題発見に努め、主体的・協働的に課題解決に向かう能力を培う。
 3. 広い視野と幅広い人間性をもった、国際感覚豊かな人を育成する。
 4. 地域を愛し、持続可能な地域づくりに貢献する「地域社会人」を育成する。
 5. 文武両道を通して、知・徳・体のバランスがとれた人を育成する。
- 社会に貢献できる人材の育成については、卒業後、都市部で学ぶことがあっても、地元に戻り地域を支えるために活躍する生徒を育てるとともに、一方で、日本や世界のために活躍する生徒を育てることを目指している。探究活動については、自ら課題を設定し、解決に向けて取り組むことのできる生徒を育てている。平成16年度に学習指導要領に「総合的な学習の時間」が設けられて以来、本校で取り組んできている「探究活動」は、本校のレガシー(過去から未来へ引き継ぐべきもの)である。昨年度も、この学びを活かし多くの生徒が国公立大学の推薦入試で実績を上げた。また、国際感覚豊かな人材の育成に向け、「恵那地球塾」として3種類の留学体験を準備している。「地域社会人」の育成については、「恵那田舎塾」や「総合的な探究の時間」を通じて、地域の魅力を知るとともに、地域で頑張っている社会人から直接話を聞く機会を設けるなどして、将来、地方行政を支える人材、地域の学校に勤務する教員、地域の会社の中核で働く人材の育成を目指している。高校生活を通じてバランスの取れた人材を育て、一人一人の

生徒が、将来こうなりたいという見通しをもって大学へ進学し、幸せな人生を送ってくれることを願っている。

学校評議員の方々や地域の方々の意見も取り入れながら、教育を推進したいと考えている。

教務部 令和2年度入学生から単位制導入によって、進路希望別・選択科目や特徴ある科目を展開することで現在よりさらに進路実現に向けて手厚く、興味関心のある授業展開が可能となった。本校では「総合的な探究の時間」と「SSH」を2本柱として、生徒に思考力・判断力・表現力そして探究力を身に付けるためのカリキュラムを実践している。また、これらの成果として、毎年多くの生徒が3年間で培ったその力を発揮し、大学のAO入試や推薦入試を突破している。岐阜県高等学校進学指導連絡協議会（八校会）では、トップの合格率となっている。

現在は、令和4年度からの新しい教育課程の編成に取り組んでいる。今後も、幅広い生徒に対応した教育課程を編成していきたいと考えている。

生徒指導部 昨年度は、人権的配慮の観点から、男女別の制服の見直しを行った。今後も一人一人の生徒に配慮した指導を行っていききたい。また、不登校生徒への支援も課題の一つであり、学習面で不安を抱える生徒が不登校となる傾向がある。こうした生徒への支援も丁寧に行っていきたい。

生徒の主体性を育てるために、学校祭等の生徒会活動や、HR活動（いじめをテーマとしたHR活動、生徒の運営するHRなど）を充実させるように努めている。とりわけ学校祭の準備については、生徒たちが限られた時間の中で工夫しながら行っており、「集団や社会の一員としてよりよい学校づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的態度を育てる」という点で、本校では大きな意義があると考えている。しかし、今年度は、コロナ感染症の影響で、文化祭のみの開催となり、保護者も参観できない状況であることは残念である。

進路指導部 探究活動の積み重ねが大学の合格実績に結びついている。昨年度は84名が国公立大学に合格しており、特に推薦入試で成果を上げている。「課題研究」でペニシリンの研究をし、ハワイ研修で医薬品の原料となるヤエヤマアオキ（ハワイ現地語ではノニ）の研究をした生徒が、AO入試で東北大学薬学部合格した実績がある。名古屋大学のAO推薦入試においては、過去3年間の合格者数が全国6位である。また昨年度の国公立大学のAOを含む推薦入試の合格者数は31名であり、東海5県で6位である。

生徒の自学自習を支援するために、オンライン教材を導入した。当初は3年生を対象としたが、1、2年生の要望もあり、全校生徒の約半数が購入し学習に取り組んでいる。来年度は全校生徒を対象とすることを考えている。

様々な講座や進路学習のための行事を予定していたが、コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となったものも少なくない。しかし、保護者進路研修会をオンラインで開催するなど、生徒、保護者、教職員が情報を共有し、一体化した進路指導の充実を図っていききたい。

探究理科数部 理数科の柱であるSSH事業は、問題発見能力、論理的思考力と国際性を備えた科学技術系人材の育成を目指したものである。現在4期目の指定を受け、来年度で18年目となるが、これほど長期には渡り指定を受ける学校は全国で30校程度である。本校のSSH事業には「課題研究」、論理的思考力を身につけることを目的とした「SSL」、社会との共創をめざした「SSR」がある。第4期は、第3期までの成果を踏まえ、「課題研究」と論理的思考力の育成を柱に研究開発を行うことにしている。本校が特に大切にしているのは、「課題研究」で、生徒が通常の授業で学んだものの中から課題を見つけ、探究活動に結びつけるように指導している。

年に2回外部からの参観者を対象とした発表会を行っている。評議員の方々にも参観いただき、ご助言をいただくことを予定している。

(2) テーマ 意見交換

意見1 単位制となり、生徒に合った科目が設定されており、学校として生徒の成長を応援していることがわかる。

意見2 恵那高の評判がよくなった。これまでの教職員の努力に加え、教育活動の成果を上手に外部にPRできていることが一因である。

意見3 「人間力を高めてほしい」、「幸せな人生をおくってほしい」等、親の立場から見ると、学校の発するメッセージが直接心に訴えかけてくる。説得力のある発信がなされている。

- 意見 4 コロナ感染症により家庭の経済状況が大きく悪化している。大学進学においても、必然的に国公立志向が高まることが予想される。学校として、生徒が高校卒業後、学業が継続できるように有効な支援をしてほしい。
- 意見 5 将来の地元の教育者を育てるという考えはすばらしい。恵那高校在学中に教育の面白さを実感し、一人でも多く教育の道へ進む者が生まれることを希望する。ミニ教育実習において教育相談の部分についても学ぶ機会があると、より教育の魅力がわかるのではないか。
- 意見 6 不登校生徒対応は外部機関と連携して丁寧にやっただいている。また、医療機関も学校と連携してより不登校生徒の支援にあたりたいと考えている。一層連携してほしい。
- 意見 7 ボランティア活動は生徒に社会性を身につけさせるよい機会である。日本は自然災害の多い国なので、災害支援のボランティアは将来的にも必要である。ボランティア活動を単位として認定し、すべての生徒が参加するようにしてほしい。

(回答) 恵那高校では年間を通じて多くのボランティア活動の機会を紹介しており、多くの生徒が参加している。防災意識の啓発については、年に複数回実施する校内の「命を守る訓練(避難訓練)」において、校長に替わり、恵那市の防災士の講座を受講して防災士の資格をもつ生徒が、十分な準備により講話等を担当し、生徒の防災意識の向上にもつながると好評である。また、災害支援については、先月熊本で発生した自然災害を受けて、被災地に使用済みタオルを送る支援を全校生徒に呼びかけたところ、多くのタオルが集まり、相互支援やボランティアに対する本校生徒の意識の高さが感じられた。なお、現在は学校としての被災地でのボランティア活動の参加は予定していない。

- 意見 8 恵那高校の探究活動はすばらしいものであり、今後も継続して取り組んでほしい。
- 意見 9 生徒に力をつけさせるために、様々な試みをしていただいていることはありがたい。今年度から導入したオンライン教材の購入者が約半数であるのはなぜか。

(回答) 年度途中の採用であり、有料であることが理由として考えられる。しかし、オンライン教材は有効な学習支援のひとつであるため、来年度は、副教材を精選し、保護者に大きな負担をかけない形で、全員に購入してもらうことを考えている。

6 会議のまとめ

評議員会当日の大雨警報発表で休校となったため、授業参観で生徒の学習する姿を見ていただけなかったことは残念であったが、会議においては、率直で貴重なご意見を多数頂戴し、たいへん有意義な学校評議員会となった。今年度就任された新規の委員の3名からも、現在恵那高校が取り組んでいる教育活動に対して好意的で期待が込められた意見を多くいただいた。意見交換で出された意見の一つ一つが学校をよりよくするための具体的な指針となるもので、これらの意見を活かす方策を考え実行に移していきたいと考える。

不登校生徒の支援については、研修等で職員の専門性をさらに高め、関係機関と連携して取り組むことで、学習指導も含め、困り感のある生徒に迅速で丁寧な対応を継続するように努めたい。

今後も、現在の本校の取り組みのキーワードである「探究」・「地域」・「国際」を軸に、本校職員が一丸となり、評議員の皆様をはじめ、多くの方々の意見を取り入れながら、国や地域社会のリーダーを育成していきたい。